

No. 1034

巨人、輝くV9

—日本シリーズ—

1973年度日本シリーズ第5戦は11月1日後楽園球場で行なわれました。このシリーズ第1戦を失ったものの続く3試合に勝ち、この試合で日本一を決めようと意気込む巨人。一方、何とかして大阪へ舞台を移そうと必死の反撃を見せる南海。一回表、南海は四球で出た島野がすぐ二盗、広瀬内野安打の後、門田の大きなセンターフライで早くも先取点をあげ、試合の主導権を握ります。しかし、その裏巨人は二塁に末次を置いて王が鮮やかな逆点2ラン。勢いづいた巨人は3回、7回にも着々と追加点をあげ有利に試合を進めます。守っても倉田、堀内の好リレーで南海打線を寄せつけず、結局5-1で巨人が勝ち、輝くV9を達成しました。

こ ぜ
瞽 女

越後路に哀歌は流れる

越後路に異様な装束をした三人の旅姿を見た。瞽女であった。瞽女とは盲目の旅芸人のことである。そこに道があり、そこに家があれば越後に瞽女の通わぬところはない。かどから門へ、のきから軒へ、手引きの関矢ハナさん(64)を先頭に、三味線を手にした金子セキさん(61)と中静ミサオさん(60)がしたがう。「ごめんなんしょ」関矢さんが声をかけると、金子さんと中静さんは三味線にのせて門付け唄を歌う。

咲いた花より咲く花よりも
咲かぬおぬしのそばがよい
あいた見たさに飛びたつように
親は出さぬはかこの鳥……

茶わん一杯のお米を家の誰かがさしだす。家に誰かがいる限り、お米のさしだされないことはない。まだ見ぬ世を歌い、人づてに聞いた他国の歌を歌い続けて四十年になる二人、初旅は十四と十五の時だったとか。来年は、と問えば、身体がいうことをきけば、と答えた。越後路を旅して歩く瞽女さんはもう金子さんと中静さんだけになってしまったという。およそ四百年の伝統をもち、かつては山深い農村の数少ない娯楽であった瞽女唄も、テレビの普及で、今はもうすたれ消え去ろうとしている。秋の短い陽ざしがかたむきはじめた越後路に瞽女唄が哀しみをおびて流れる。